

2021年度トークタイム・レポート

著者	松本 知子
雑誌名	甲南大学学生相談室紀要
巻	30
ページ	91-92
発行年	2023-02-28
URL	http://doi.org/10.14990/00004503

2021年度トークタイム・レポート

甲南大学学生相談室 松本知子

2011年4月より開始したランチアワーは今年度で11年目となり、昨年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応として、トークタイムと名称を改めて実施して2年目となった。

2年目のトークタイムは通例の月曜と水曜に曜日を戻し、週2回行った。基本的には対面で実施したが、状況に応じてZoomを活用して行った。

大学での授業は履修者の人数によって、対面とオンラインを活用したものとの併用で行われており、トークタイムは対面での実施でスタートした。しかし、4月25日から3回目の緊急事態宣言が出され、参加学生の授業形態について聞いていたこともあり、月曜をZoomで行い、水曜を対面という風に併用する形に決めた。緊急事態宣言が出た25日は日曜であり、翌26日からZoomで行うことにしたため、26日の午前中に学生に連絡を取り、Zoomでトークタイムを行った。以降、6月20日まで緊急事態宣言が発令されており、月曜はZoomで7回実施した。前期はそれ以降はどちらの曜日でも対面で実施できた。また、対面で行っていたので、昨年のように夏休み期間にZoomでトークタイムを行うことはなく後期を迎えたが、後期の始まる9月下旬は4回目の緊急事態宣言の渦中であった。そのため、9月は学生の意向を聞き、どちらもZoomで行う形でスタートした。10月以降は緊急事態宣言が出されることはなかったため、対面での実施となった。このように、トークタイム2年目も大学の授業形態や、緊急事態宣言の発令を見ながら臨機応変に対応する形で実施した。

参加者数は表1の通りである。昨年の後期に

2.2人と人数が減り、年度での平均参加者数も3.2人と減ったが、今年度は更に減ってしまった。前期の授業終わりの頃に一度参加者が0人という回があった。後期はそのような回が更に増え、10月に2回、11月に1回、そして12月は3回となった。今年度も新入生へのガイダンスが対面で実施できず、オンラインを活用しての動画配信になり、学生相談室で行っているプログラムの周知が弱かった面が大きい要因であろう。また、昨年と同様に、検温や学生証を示して入構する門が限定されており、本校舎から学生相談室に向かう際に近い門が閉鎖されていることから遠回りの感が否めず、参加しにくさとして表れたと言えるだろう。

表1 2021年度トークタイム参加人数

実施月	実施回数	のべ参加者数	平均参加者数	
前期	4月	8 (1)	22	2.8
	5月	7 (4)	19	2.7
	6月	9 (2)	16	1.8
	7月	6	11	1.8
	小計	30 (7)	68	2.3
後期	9月	2 (2)	8	4.0
	10月	8	11	1.4
	11月	8	14	1.8
	12月	7	8	1.1
	1月	4	6	1.5
	小計	29 (2)	47	1.6
年間合計	59 (9)	115	1.9	

* () はZoomでの実施回数を表す

参加者の中心は以前からの常連の学生達であった。最上級生になり、就活で忙しくする学生や研究に勤しむ学生もおり、サロン室に顔を出す機会

が減っていった。また、単位の履修が上手くいっており、登校する機会の減った学生もいたため、常連の学生の参加が減ってしまった。新規で継続して参加する新生もいたが、授業の都合で曜日を選んで参加したり、前期は参加していたが、後期はオンライン活用授業を選び、登校しなくなったりしたことで、参加しなくなり、特に後期が大きく減ってしまった。ちなみに後期の9月のZoomで2回行った際は盛況だったが、それは筆者が常連だった学生へ連絡をして、IDやパスワードを伝えるついでに近況を訊いて参加を促したことが、功を奏した形になった。就活を終え、内定を得た学生が久しぶりに顔を出してくれて、皆にその報告をするために参加してくれた。しかしそれ以降はやはり登校することが減ったため、以後は参加しなくなった学生もいた。

先述したように、以前からの常連の学生は最上級生になったため、トークタイムでは自然と進学や就職、研究や卒論の話題が占めるようになった。新しく参加するようになった学生は新生が多かったが、偶然最上級生と同じ学部であったため、必修の授業のことやその担当の先生に関する話題も出ていた。新生は授業や学修面について不安の高い様子であったが、先輩からの情報を頼りにして、ほっとした様子も見られた。そうした際に、最上級生になった常連学生からは、彼らが下の学年の時にトークタイムに参加していた最

上級生がいたことを思い出し、自然と今どうしているのかな…といった思いが語られることもあった。この様に、先輩後輩が知り合いになることのできるトークタイムの良さを改めて感じる機会にもなった。また、他の新生は授業よりもまず大学での生活に馴染めるかが不安な様子であり、筆者との話題も好きな音楽の話や、睡眠や食事といった生活での様子を訊くといったカウンセリングと同様の話をするということもあった。

学生に学生相談室の活動や提供するイベントをより積極的に周知するために、学生相談室のLINEアカウントを作り、10月から運用を始めることになった。11月からトークタイムのお知らせも適宜アップしていくことになったが、まずは学生に登録してもらうことから始め、少しずつ登録者を増やしていつている状況である。まだ残念ながらトークタイムに参加が増えるといった効果は表れていないが、じわじわと登録者が増えていけばと思う。

カウンセリングというと敷居を高く感じたり、自分には必要ないと拒絶する学生もいるので、トークタイムだと気軽に参加しやすい面はあると考える。今後もコロナウイルスの影響で従来のランチアワーという形で行うことは依然として出来ないが、学生が気軽に参加できるグループということで、粘り強くトークタイムを今後も継続していきたいと思う。